

長年の課題、工場内の生産管理をQRコードで

「広い工場での進捗管理、ムダを最小限にする在庫把握に、どんなシステムを作るべきか、検討し続けてきました」

千葉県の子会社青柳鋼材興業は、橋梁やビル用の大型鋼板の切断・加工を筆頭に、鋼板の素材販売までを広く手がける。社内の情報システムは、管理本部副本部長兼情報システム室長の浅水忠己氏を中心に自社開発を行ってきた。その中で、大きく場所をとり、一番薄いものは4.5ミリ、厚い



管理本部副本部長兼
情報システム室長
浅水忠己氏



ものは百ミリ超という鋼板の7000トンに及ぶ在庫管理をどう行うかが長年の課題であった。さらに、営業担当者が受注品の進捗を確かめるため本部と工場を行き来することも多く、生産の進捗情報をリアルタイムで把握したいという希望もあった。

バーコードやRFIDなど各種技術を比較検討した結果、在庫鋼板や生産の情報をQRコード化することに。工場内ではこれを携帯電話で読み取り、無線LANを経由して本部のサーバと情報をやり取りする「モバイル生産支援システム」を考案した。

新システムではKDDIの「E02SA」携帯電話を配布。加工を始める際に指示書と使用原材料のQRコードを読み取り、作業開始を登録。終了後も同様の操作だ。携帯電話は内線電話も兼ねており、社内のどこにいても連絡が迅速に取れるようにな

>>> DATA

業種	鋼材の切断加工
活用分野	原材料の在庫管理、生産の進捗管理、内線電話
テクノロジー	QRコード、BREW、携帯電話の無線LANアクセス



工場内は大きな鋼板が並ぶ。板にQRコードを貼り付け、携帯電話で読み込む



った。

浅水氏は、「何台も機器を持つのはわずらわしいですが情報端末が1台に集約できました。導入後は連絡ミスやタイムラグがなくなり、在庫把握も正確さがアップ。棚卸は以前の半分の時間で済んでいます」と笑顔で語っている。操作が簡単であることも好評とのことだ。